自然教育園報告（Rept. Inst. Nat. Stu.）
第31号：1-8，2000.

自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録（12）

久　居　宣　夫*

Notes on Newly or Rarely Observed Animal Species in the Institute for Nature Study (12)

Nobuo Hisai *

は　じ　め　に

今回は，1999年１月～1999年12月に新たに生息が確認されたり，目撃された種あるいは前報（久居，1999）までに記録がもれた種について報告する。稀種については，「動植物目録」（国立科学博物館附属自然教育園，1984）中で，r：“稀”，または（r）：“古い記録はあるが，現在未確認の種”とされている全ての種を対象にしたが，これら以外にも最近特に個体数や目撃記録が著しく減少した一部の種も対象とした。

なお，学名及び和名などは原則として上記の目録に準拠した。カッコ内の日付は目撃あるいは捕獲した西暦年月日と目撃または捕獲地点及び目撃者，捕獲者名を示し，氏名のない場合は著者の記録によるものを示す。また，VTRと記してあるのは，建物跡地にある通称「カワセミの池」脇に設置されているビデオ装置によって撮影された動物を後日記録したものである。

本報告をまとめるにあたって，日頃より種々のご教示と同定をしていただいている東洋大学の大野正男教授，日本蜘蛛学会の新海栄一氏ならびに貴重な記録を提供してくださった方々に感謝の意を表する次第である。

1．追　　録

Arthropoda　節足動物門

Arachnida　蛛形綱

Argyrodes fissifrons O.P.-Cambridge　チリイソウロウグモ（真正クモ目　ヒメグモ科）（1998.9.1　インセクタリゥム内）新海栄一氏同定

インセクタリゥム内（図１参照）にいた個体を捕獲したものである。

本種は本州～九州及び西南諸島に分布し，クサグモの網に入ってクサグモを捕食する習性がある（千国，1989）。

＊国立科学博物館附属自然教育園，Institute for Nature Study, National Science Museum

Vertebrata 脊椎動物門

Aves 鳥綱

Ficedula zanthopygia (Hay) マミジロキビタキ（スズメ目　ヒタキ科）（1999.5.15　VTR）

雄の成鳥がビデオに撮影されていたものである（図2）。

本種はモンゴル～ウスリー・中国・朝鮮半島に生息し，日本へは迷鳥として稀に本州・九州・対馬に渡来する（小林, 1976；内田・島崎, 1987）。

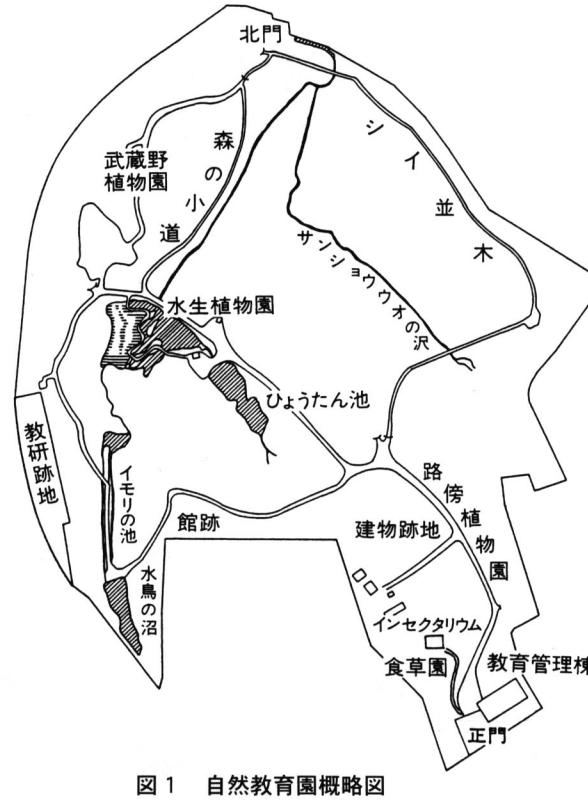

図1　自然教育園概略図

Anas clypeata Linnaeus ハシビロガモ（ガンカモ目　ガンカモ科）（1999.2.24　水生植物園　大澤陽一郎氏）

本種は，国内では北海道北部で一部繁殖するのが知られているが，大部分は秋にシベリア大陸から渡来する。冬は各地の湖沼・沼沢地・水田・干潟などに生息し，海岸近くや平地に多い。日中は海上・湖沼・河口などで休息し，主として夜間にイネ・ヨシなどの種子やモノアラガイ・ゲンゴロウ類などを採餌する（清棲，1966；小林，1976）。

2．稀種の記録

(1) 昆　虫　類

Losbanosia hibarensis (Matsumura) アヤヘリハネナガウンカ（半翅目　ハネナガウンカ科）（1999.7.25　インセクタリゥム前）

本種は1996年に初記録された種で（久居，1997），昨年に続き今回もインセクタリゥム前で2個体が目撃された。

Alcimocoris japonensis (Scott) ウシカメムシ（半翅目　カメムシ科）（1999.8.7　教育管理棟裏　三枝近志氏）

本種は東京での記録は少なく，本園での初記録は1989年である（久居，1990）。今回は教育管理棟裏のケヤキの樹幹に止まっていた個体を三枝氏が写真撮影した記録である（図3）。

本園以外では，最近の記録としては1990年に文京区及び千代田区で報告された例がある（日下部，1990）。

Papilio machaon hippocrates C. et. R. Felder　キアゲハ（鱗翅目　アゲハチョウ科）（1999.10.1　水生植物園　矢野亮氏；10.16　水生植物園）

水生植物園で比較的新鮮な個体が目撃されたほか，ノダケにいる終齢幼虫が多数採集された。

本種は20年程前までは稀に見られたが，その後長期間にわたってほとんど観察されていない種である。1998年，観察用にインセクタリゥム内で本種を飼育していた経緯があり，そのうちの数個体が逸出し，園内で繁殖した可能性もある。

Antigius attilia attilia (Bremer) ミズイロオナガシジミ（鱗翅目　シジミチョウ科）(1999.6.2　正門付近　矢野亮・大澤陽一郎氏；7.8　食草園)

6.2の記録は，路傍の葉上に止まっている個体が目撃されたものである（図４）。同日，これ以外にも正門付近で羽化失敗で死亡したと考えられる２個体が観察された（矢野氏のご教示による）。

Rapala arata (Bremer) トラフシジミ（鱗翅目　シジミチョウ科）(1999.6.13　インセクタリゥム付近，7.25　土塁付近の路傍，7.30　以上矢野亮氏；8.1　食草園)

7.30以外はいずれも新鮮な個体の目撃記録であり，以前よりも個体数が増えているものと考えられる。

Lampides boeticus (Linnaeus)　ウラナミシジミ（鱗翅目　シジミチョウ科）(1999.10.14　水生植物園　萩原信介氏)

今回は，水生植物園のベンチ脇のタイアザミで吸蜜している個体が目撃された。

本種は30年程前までは秋に多く観察される普通種であったが，10年程前から徐々に少なくなり，最近ではほとんど目撃されていないシジミチョウの一種である。本種は本園に限らずかなり広い地域で減少しているようであるが，これは，土着の北限である房総半島南端部で，食餌植物であるマメ類の栽培が減少していることにも関係しているのではないかと考えられる（久保田繁男氏のご教示による）。

本種は暖地性のチョウであり，越冬地から世代を重ねながら移動する。非越冬地の本園には，晩夏～初秋に個体数が急増する第４世代が飛来するものと考えられる（福田他，1984）。

Curetis acuta paracuta Nicéville　ウラギンシジミ（鱗翅目　シジミチョウ科）(1999.1.24　あずまや付近　桑原香弥美氏；7.7，7.30　食草園　矢野亮氏；9.9　土塁前の路傍　吉井三恵子氏；10.5　水生植物園；10.31　正門前　藤村仁氏；11.19　食草園)

Parantica sita niphonica (Moore)　アサギマダラ（鱗翅目　マダラチョウ科）(1999.6.13　館跡付近　菅原十一氏；10.7，10.8　土塁付近の路傍　吉井三恵子氏；10.13　土塁付近の路傍　桑原香弥美氏；10.16　水生植物園のベンチ脇)

秋の記録は同一個体の可能性があり，いずれもタイアザミで吸蜜していた（図５）。

Neptis sappho intermedia W. B. Pryer　コミスジ（鱗翅目　タテハチョウ科）(1999.9.24　食草園)

本種は1996年におよそ20年ぶりに再見された（久居，1997，1998）。今回はそれ以来の記録であり，園内で少数個体が繁殖している可能性もある。

Kaniska canace (Linnaeus)　ルリタテハ（鱗翅目　タテハチョウ科）(1999.1.28　水生植物園　吉井三

恵子氏）

Vanessa indica indica (Herbst) アカタテハ（鱗翅目　タテハチョウ科）（1999.10.11　食草園及び水鳥の沼）

1995年以後は毎年のように観察される。今回は食草園と水鳥の沼で別個体が目撃されたので，少なくともこの時期には２個体以上が園内に生息していたと考えられる。本種も園内で繁殖している可能性がある。

Melanitis phedima oitensis Matsumura　クロコノマチョウ（鱗翅目　ジャノメチョウ科）（1999.4.22 森の小道，9.24　インセクタリゥム付近；10.30　インセクタリゥム付近　矢野亮氏；11.4　西便所付近）

本種は正門からインセクタリゥムに行く小道で目撃されることが多いが，今回は森の小道や西便所付近の林内でも観察された。

Eophileurus chinensis (Faldermann) コカブトムシ（鞘翅目　コガネムシ科）（1999.9.4　森の小道入口付近）

本種は稀に目撃される。今回は夜間に実施した「鳴く虫」の観察会の折りに，Ｔ字路付近のソメイヨシノの樹幹に止まっている個体が観察された。

Aiolocaria hexaspilota (Hope) カメノコテントウ（鞘翅目　テントウムシ科）（1999.2.18　水生植物園の反対側湿地）

本種は「昆虫目録」（鶴田他，1952）に登載されているが，本園では個体数が少なく目撃例があまりない種である。今回は，水生植物園の反対側に広がる湿地の奥に建設されている気象観測塔の記録ボックス内で集団越冬しているナミテントウに混入している個体が観察された（図６）。

本種はナミテントウの集団越冬に混在することがよく観察されている（松下，1981；三枝，1982）。また，幼虫はクルミハムシの幼虫を捕食することがよく知られているが（中根，1963），本園ではクルミハムシの生息が確認されていない（大野，1981）。幼虫の飼育観察ではコガタルリハムシ・エノキハムシ・トホシクビボソハムシの幼虫を捕食する（佐久間，1972；小林，1979）ことから，園内でもクルミハムシ以外のハムシ類の幼虫を捕食し，繁殖している可能性もある。

(2) そ の 他

Gekko japonicus Duméril et Bibron　ニホンヤモリ（トカゲ目　ヤモリ科）（1999.9.5　教育管理棟内　武藤幹生氏）

教育管理棟内の階段で，体長約25mmの幼体が目撃された。

Elaphe conspicillata (Boie) ジムグリ（トカゲ目　ナミヘビ科）（1999.10.11　第二コース路傍）

本種も最近しばしば目撃されているヘビの一種である。今回は、体長約20cmの幼蛇が観察された。

Anas acuta acuta Linnaeus オナガガモ（ガンカモ目　ガンカモ科）（1999.12.9　水生植物園　武藤幹生氏）

本種は1998年10月に初記録された（久居，1999）。

Aythya fuligula (Linnaeus) キンクロハジロ（ガンカモ目　ガンカモ科）（1999.11.20　水生植物園　吉野由美子氏他）

本種は1989年11月に初記録され（久居，1990），その後冬季稀に目撃される。

Milvus migrans lineatus (J.E.Gray) トビ（ワシタカ目　ワシタカ科）（1999.1.20　路傍植物園　桑原香弥美氏；2.27　正門付近　武藤幹生氏；12.4　正門付近　藤村仁・武藤幹生氏）

いずれの記録も本園の上空を飛翔していたのが目撃された。

Accipiter gularis gularis (Temminck et Schlegel) ツミ（ワシタカ目　ワシタカ科）（1999.10.22　水生植物園　藤村仁氏）

本種は1991年９月に初記録された種で（久居，1993），目撃例は少ない。今回は水生植物園の上空を飛翔していた個体が目撃された。

Falco tinnunculus interstinctus Horsfield チョウゲンボウ（ワシタカ目　ハヤブサ科）（1999.4.8　水生植物園　武藤幹生氏）

本種は水生植物園の上空を飛翔していた個体が目撃されたものである。上述のツミと同様に目撃例は少ない。

本種は夏季は主として山地に生息し，冬季は平地や山地の農耕地・湿地・海浜などに生息する。

Sphenurus sieboldii sieboldii (Temminck) アオバト（ハト目　ハト科）（1999.5.21　VTR；12.23　カワセミ池　武藤幹生氏）

本種は1987年10月に初記録され，1989年11月にも目撃されているが（久居，1989，1990），その後の目撃記録はない。

Cuculus saturatus horsfieldi Moore ツツドリ（ホトトギス目　ホトトギス科）（1999.5.2　館跡付近　武藤幹生氏）

本種は1988年５月以来の記録で，本園では渡りの時期の通過記録としても珍しい。

Otus bakkamoena semitorques Temminck et Schlegel オオコノハズク（フクロウ目　フクロウ科）（1999.1.14　VTR）

本種は「国立自然教育園動物目録第２集鳥綱」（文部省国立自然教育園，1954）に登載されているが，その後全く目撃されていなかった貴重な記録である。

本種は低山や平地の人里近くの森林や社寺林などに生息する（小林，1976）。

Ninox scutulata japonica (Temminck et Schlegel) アオバズク（フクロウ目　フクロウ科）（1999.10.28）

本園に隣接する民家から，渡りの通過中の若鳥が持ち込まれ，保護を依頼されたものである。翌日記録後に放鳥した。

本園では，以前夏鳥として渡来し，園内で繁殖したこともある（千羽・坂本，1992）。

Apus affinis subfurcatus (Blyth) ヒメアマツバメ（アマツバメ目　アマツバメ科）（1999.11.27　水生植物園　藤村仁氏）

本種は同時期に昨年も目撃されている（久居，1999）。

Pericrocotus divaricatus divaricatus (Raffles) サンショウクイ（スズメ目　サンショウクイ科）（1999.5.2　シイ並木　藤村仁・武藤幹生氏）

本種は渡りの通過中の記録。

Turdus cardis Temminck クロツグミ（スズメ目　ヒタキ科）（1999.5.2　森の小道　藤村仁・武藤幹生氏）

本種も渡りの通過中の記録。

Cettia squameiceps (Swinhoe) ヤブサメ（スズメ目　ヒタキ科）（1999.1.10　森の小道　武藤幹生氏）

本種は夏鳥であるが，尾羽がぬけ落ちているため，渡りができなかったものと考えられる（武藤氏のご教示による）。

Phylloscopus borealis xanthodryas (Swinhoe) メボソムシクイ（スズメ目　ヒタキ科）（1999.5.30　シイ並木　藤村仁・武藤幹生氏；8.30，8.31　VTR）

本種は渡りの季節に稀に目撃される。

Phylloscopus occipitalis coronatus (Temminck et Schlegel) センダイムシクイ（スズメ目　ヒタキ科）（1999.5.2　シイ並木　藤村仁・武藤幹生氏）

本種も渡りの季節に稀に目撃される。

Ficedula narcissina narcissina (Temminck) キビタキ（スズメ目　ヒタキ科）（1999.4.30，5.4　ひょうたん池上流，5.3　武蔵野植物園　以上武藤幹生氏；5.7　東京都庭園美術館　藤村 仁・武藤幹生氏；9.5，10.9，10.30　以上VTR）

Ficedula mugimaki (Temminck)　ムギマキ（スズメ目　ヒタキ科）（1999.9.27，10.21　以上VTR）

今回はいずれもビデオによって撮影されていた記録である。本園では，1987年10月以来の貴重な記録である（久居，1989）。

本種は夏季にシベリア東部・サハリンなどで繁殖し，冬季はマレー諸島に渡る。日本へは渡りの途中に初夏と秋に飛来する（清棲，1966；小林，1976）。

Cyanoptila cyanomelana cyanomelana (Temminck) オオルリ（スズメ目　ヒタキ科）（1999.4.20　ひょうたん池上流　大澤陽一郎氏；5.2　武蔵野植物園　藤村仁・武藤幹生氏；9.12　VTR）

Muscicapa sibirica sibirica Gmelin　サメビタキ（スズメ目　ヒタキ科）（1999.9.23，10.7，10.8，10.25　以上VTR）

渡りの通過中の記録。

Terpsiphone atrocaudata atrocaudata (Eyton)　サンコウチョウ（スズメ目　ヒタキ科）(1999.8.25 VTR)
本種は，以前春と秋の渡りの時期に時々目撃されていたが（千羽・坂本，1992），最近では稀になった。

Uragus sibiricus sanguinolentus (Temminck et Schlegel)　ベニマシコ（スズメ目　アトリ科）(1999.3.31 水鳥の沼付近　藤村仁氏)
本種は冬季に稀に目撃される。

引　用　文　献

千羽晋示・坂本直樹．1992. 自然教育園の鳥類の記録（1988～1991）．自然教育園報告，(23):1-9.

千国安之輔．1989. 写真・日本クモ類大図鑑，308pp．偕成社．東京.

福田晴夫他８名．1984. 原色日本蝶類生態図鑑（Ⅲ）. 373pp．保育社.

久居宣夫．1989. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(2)．自然教育園報告，(20):1-13.

久居宣夫．1990. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(3)．自然教育園報告，(21):11-21.

久居宣夫．1993. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(5)．自然教育園報告，(24):1-8.

久居宣夫．1997. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(9)．自然教育園報告，(28):27-31.

久居宣夫．1998. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(10). 自然教育園報告，(29):13-17.

久居宣夫．1999. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(11). 自然教育園報告，(30):17-24.

清棲幸保．1966. 野鳥の事典. 413pp．東京堂出版，東京.

小林桂助．1976. 原色日本鳥類図鑑，増補改訂新版. 248pp．保育社.

小林俊樹．1979. カメノコテントウの飼育. インセクタリュム，16(6):25.

国立科学博物館附属自然教育園．1984．国立科学博物館附属自然教育園動植物目録. 118pp.

日下部良康．1990. ウシカメムシの東京都内の記録．月刊むし，(238):26.

松下理一．1981. 集団越冬するテントウムシたち. インセクタリュム，18(12):3.

文部省国立自然教育園．1954. 国立自然教育園動物目録第２集鳥綱．国立自然教育園基礎資料，(2):1-4. 国立自然教育園.

中根猛彦．1963. テントウムシ科.「原色昆虫大図鑑第２巻（甲虫篇）」(中根猛彦他共著)，207-212．北隆館.

大野正男．1981. 自然教育園のハムシ相. 自然教育園報告，(12):3-19.

三枝博幸．1982. あちらこちらでカメノコテントウ. インセクタリュム，19(7):25.

佐久間邦彦．1972. カメノコテントウムシのエサ. インセクタリュム，9(8):21.

鶴田総一郎他．1952. 国立自然教育園動物目録第１集昆虫綱．国立自然教育園基礎資料，(1):1-42. 国立自然教育園.

内田清一郎・島崎三郎．1987. 鳥類学名辞典. 1207pp．東京大学出版会.

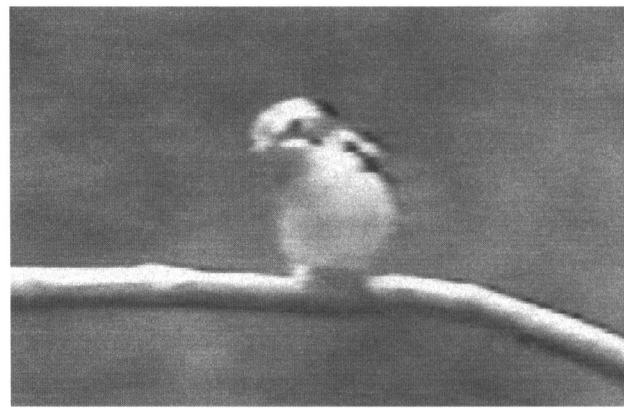

図2 ビデオカメラで撮影されたマミジロキビタキ

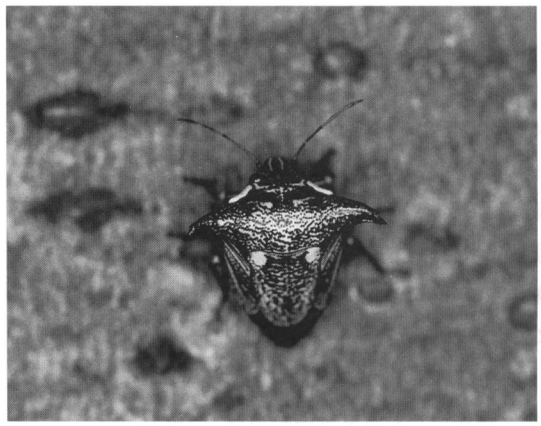

図3 ケヤキの樹幹に止まるウシカメムシ
（三枝近志氏撮影）

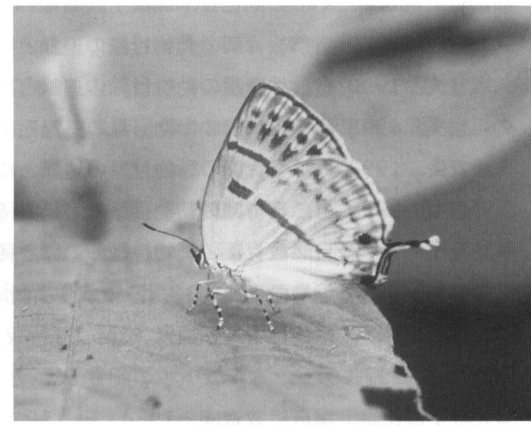

図4 葉上で羽を休めるミズイロオナガシジミ

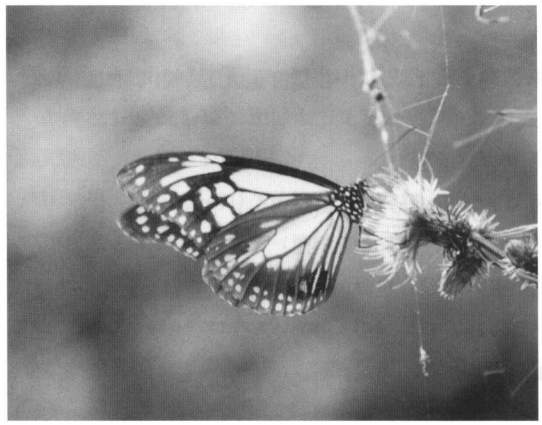

図5 タイアザミで吸蜜するアサギマダラ
（吉井三恵子氏撮影）

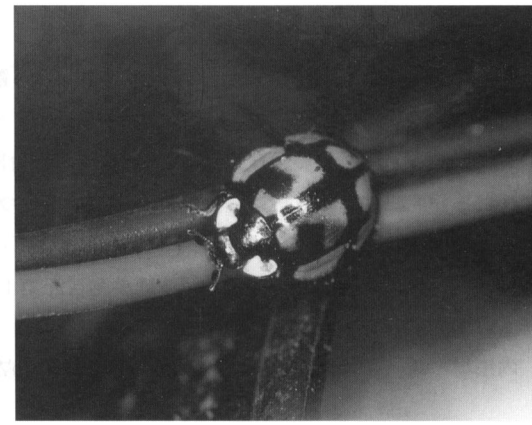

図6 越冬中のカメノコテントウ
（三枝近志氏撮影）